

明治三十七年

(二月)

一月一日 甲午 金曜 晴。

朝五時起。四方拝。八時、一家挙て塾生も共に雑煮を祝ふ。椒酒も畢て氷川神社に参詣して帰。続々賀客来る。午下、余、栄、鶴、そのを連て、日比谷公園に行。神田橋より日比谷迄始て電車通行す。

一月二日 乙未 土曜 晴。

朝より方々え礼廻りする。夕景帰。賀客続々来る。

払方摘要 車夫え二円。

一月三日 丙申 日曜 晴。

午下五時より三井氏二行、松はやし、素謡二番、一調、独吟、九時帰。宅にてはかるた会にて、姉小路夫婦、石山頭、多、橋岡等来り、皆々九時帰。

払方摘要 車夫え一円。

*松はやし(松囃子) *かるた会(カルタ会) *石山頭(石山陽)

一月四日 丁酉 月曜 晴。

観世清廉来りて、巖上松新作謡ふ。

一月五日 戊戌 火曜 晴。月如水。31(度)。

余、桃子と同道、新橋九時半汽車ニテ三谷原氏え行。横浜停車場迄、馬車迎ひに来り、のりて行。安子のみにて富太郎氏ハ老松町にて集会のよし。不逢。孔雀明王の宝軸を見る。代貨金一万円也と。種々もてなしにて、午下五時半の汽車にて帰る。

払方摘要 菓子三箱、一円八十銭。

*のりて(乗りて)

一月六日 己亥 水曜 晴。 31 (度)。

近衛篤丸公の葬式日。此日、素謡会の筈、右二付、延引す。

一月七日 庚子 木曜 晴。

受方摘要 小野くわ、五円。

一月八日 辛丑 金曜 晴。

授業始。発会式執行。午下一時ヨリ第六教室に参集す。第一、君か代唱歌、生徒一同。校長、勅語朗読。次、校長、春の始の詞を朗読。須川氏、松竹梅之演舌。生徒一、二、三、四、五、補習、段々と唱歌。遊戯もアリ。余興、持寄福引。四時全畢。参集する者百六十人。当年、閑院宮姫宮三方成らせられる。

受方摘要 斎藤梅子、五円。三条家、五円。三条治子、二円。来栖篤子、五円。田中静子、三円。

一月九日 壬寅 土曜 晴。

授業始をなす。余、午下早々橋場三条信受院様え年礼に参る。夫より小松宮様を伺ひ、幸、稲子、糸島、茂岡みつも参られ、申合したる如くにて、御かるたはしまり、御夕餐いたゞきて帰る。

受方摘要 小松宮、二円五十銭。信受院、一円廿五銭。山口梅、十円。

*御かるた(御カルタ)

一月十日 癸卯 日曜 晴。

九時より余、観世発会二行、終日、能見物する。四時過帰。当年は、元日より毎日々々来客つゞきにていそかし。

払方摘要 弁当二人、七十銭。観世次え二円。

一月十一日 甲辰 月曜 晴。

来客(以下、記述ナシ)

受方摘要 錦織隆子、吉田滝子、二円五十銭。

一月十二日 乙巳 火曜 晴。

来客、すま子来られて、余、同道、神楽坂辺散歩して帰。はし岡来る。

*はし岡(橋岡)

一月十三日 丙午 水曜 晴。此夜雨はしめてふる。

午下より御所良子殿御局え参る。四時半帰宅す。小包物出す、大坂唯専寺、京都御寺御所、京都吉田滝子、錦織隆子、房州万里家、姉小路家、濃州遠藤、青木氏、越中関一郎、右各軒え書を出す。

払方摘要 良子様次え五円。

一月十四日 丁未 木曜 晴。夜雨ふる。

払方摘要 白七子、十円。

一月十五日 戊申 金曜 晴。

朝六時より新橋二行。良子様葉山御先着にて、七時四十四分御発車二付、御見立する。帰途清水氏え行、小児を見てくる。即て帰る。

*即て(既て)

一月十六日 己酉 土曜 陰。朝はしめて雪かとはかりにふりて跡なし。

午下一時より素謡会を催す。来会、清かと、橋岡、岡崎、すま子、福田よし子、玉枝。羽衣た、田村すま、熊野玉、弱法師芳、鉢木花。実におもしろく、夜九時皆帰。すま子一宿訃音、辻八千子十三日死去申来る。

払方摘要 観世え五円。橋岡え二円。

*清かと(清廉)

一月十七日 庚戌 日曜 晴。

朝九時よりいて、三河台なる山内邸に八重子様を訪ふ。はしめて対顔する。あまりの嬉しさ

に互に言葉も出ず。流涙雨の如し。十年のふりにて種々の御咄しにて、なきあかしたり。午後三時にてまた後の御めもしを期して去る。石山氏を問て帰る。訃音、丹羽長国逝去。

*十年(の(ママ)一)ふり *なき(泣き)

一月十八日 辛亥 月曜 晴。

来客、勝間長源寺主職藤枝正観、諏訪常子、若旅信子、其兄、右此度結婚之披露に来られる。若たひより白紋羽二重一反。

*主職(住職) *若たひ(若旅)

一月十九日 壬子 火曜 晴。

来客、中村幸子。

一月二十日 癸丑 水曜 晴。

来客、都新聞記者、鳥尾千世子、桐島みつ子、小林茂子、大草茂岡、大欽はや子、宮原六之介。
*大欽はや子(大炊はや子)

一月二十一日 甲寅 木曜 晴。

書をよす、山内旭花、大坂辻氏え。若旅信子、此度結婚二付、緋友仙縮緬一反箱入、松魚一円を祝ふ。

*緋友仙縮緬(緋友禅縮緬)

一月二十二日 乙卯 金曜 晴。

来客、山内旭花君 久々十余年ふりにて、昔しへの御物語にて四時帰られる、山本久子。
山内氏、御めし縮緬一反。

一月二十三日 丙辰 土曜 晴。

書及雉子着。岩代国渡辺藤左衛門。
受方摘要 上杉氏、一円。

一月二十四日 丁巳 日曜 晴。廿九度。
来客、五島善子。書をよす、市川光。

一月二十五日 戊午 月曜 晴。廿八度。
来客、池田郁子、岡崎国よし、同たゝ子。画をよす、名古屋や滝氏え。同、岩代国、渡辺藤左衛門。書をよす(以下、記述ナシ)

*岡崎国よし(岡崎国良) *名古屋や(名古屋)

一月二十六日 己未 火曜 晴。三十度。

(コノ日、記事ナシ)

一月二十七日 庚申 水曜 晴。廿八度。

来客、岩浪稻子、酒井夏子、鳥尾知勢子、其子高子、島崎松子。寒気甚しく硯水皆氷、筆先氷て教授も出来かたし。此夜、琵琶師来。武蔵野、石童丸、イカイエイ、台湾北白川宮、送別、五番也。

*イカイエイ(威海衛)

一月二十八日 辛酉 木曜 晴。夜、雨。三十一度。

来客、角田栄子。

一月二十九日 壬戌 金曜 夜、雨。

(コノ日、記事ナシ)

一月三十日 癸亥 土曜 晴。

朝十時より観世婦人素謡会に行。四時帰。来客、九条恵子、前川初喜。

受方摘要 九条家、二円五十銭。

払方摘要 観世え会費、一円七十銭。

一月三十一日 甲子 日曜 晴。

午下、酒井氏を訪ふ而帰。来客、玉枝。

一月会計

雑費、廿一円〇八錢皆済。

(二月)

二月一日 乙丑 月曜 晴。四十度余。

墓参して帰。夕景より、余、桃子、栄、鶴、君子と同しく本郷電車はしめて運転の形況を見に行。皆乗車して日比谷公園迄勿にゆき、月正十五夜如鏡。園中散歩して、又乗車して八時迄にまた本郷に着。徒歩して帰。

受方摘要 北白川宮、二円。博文館、四円。

*勿に(忽に)

二月二日 丙寅 火曜 晴。三十二度。

橋岡来る。夜十時、松平家より電話にて梅子様只今死去のよし知らせにて大驚々入。鷺田妙子様連て松平家へ行。夜二時帰。肺炎より心臓マヒにて勿々にして事きれたる。実にいたましき事限りなし。

二月三日 丁卯 水曜 晴。

葉山御用邸姉小路さまえ野菜七種籠に入れて送る。書共。

弘方摘要 訓解十二月、一月、二月分、三円。

二月四日 戊辰 木曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

二月五日 己巳 金曜 晴。

松平梅子葬送二付、愛治郎、菊枝会葬す。来客、仁科駒女。

二月六日 庚午 土曜 晴。

来客、橋本宗二郎、安部信子、寺野母、武内順子。書至、姉小路良子。日本美術学校より參觀願来る。承諾する。来週金曜日。

弘方摘要 橋岡え五円。

*来週(来週)

(二月七日、記載ナシ)

二月八日 壬申 月曜 雨。

午下二時より閑院宮え詣し、御息所と暫時御咄し共申上、御間の物いたゞきて帰る。帰途、今川小路玉枝方に行。三治郎俄に帰京する。暫時対面して、松本館に万里伯を問ふ。其内、桃子も来る。戦争咄しにて九時頃帰る。市中は雨中ながら兵士を送る人、見舞の人にて、九段辺雑沓いはん方なし。勿に馬屋小屋建て、兵士の宿申付られる。

弘方摘要 車夫え五十銭。

*勿に(忽に)

二月九日 癸酉 火曜 晴。

余、午時より深川堀田邸に行、夜九時帰。号外の声かまびすし。市中の人氣引立愈面白く成りたり。

弘方摘要 堀田氏え三円。

二月十日 甲戌 水曜 晴。

日本号外来る。旅順ノ大海戦、我艦隊の大勝利。八日夜、旅順にて日露両艦隊の海戦あり、我艦の水雷に命中し、露の艦隊二隻沈没し、惣攻撃は九日午前九時を以て始まりたり。其結果は未だ知らるゝに至らざるも、日本の損傷に関する報告は未だ之なし。

弘方摘要 観世え千疋。場代、三円五十銭。

二月十一日 乙亥 木曜 雨。朝八時頃より空晴わたる。

昨夜十時三十分、宣戦の詔勅下る。

二月九日正午、本船が旅順を出港せし時、十六隻より成る日本艦隊か露軍艦と砲火を交へつゝあり。露戦艦二隻、順洋艦一隻、わか水雷に轟沈せらる。

別報、露の艦艇十一隻沈没。日本大勝利。又々露艦を捕獲す。この海戦ハ実に前古未曾有の激戦にて、世界海戦史に最大の材料たり。

紀元節。朝、生徒一同第二教場に君か代を唱ふ。及紀元節唱歌を唱ふ。天皇后宮其他万歳を唱ふ。

*順洋艦(巡洋艦)

二月十二日 丙子 金曜 晴。

朝六時起。散歩して帰。書をよす、葉山姉小路、姫路長尾え、長野森本氏え。美術学校より教員生徒等十五六人參觀する。来客、松永国子。

二月十三日 丁丑 土曜 晴。

朝六時起。散歩して帰。

号外、露艦暴行。露艦四隻にてわか商船名古浦丸を撃沈す。今一船は逃る。北海道渡島沖にて也。

礪川小学校に於て高田早苗、江原素六二氏の教育演舌アリ。わか生徒、聞にゆく。

*わか(我が)

二月十四日 戊寅 日曜 晴。

来客、橋本宗二郎、三治郎、重威も来り、朝より戦争談にて大本營の如し。午下二時迄。姉小路基遂も。余ハ菊枝と同道、本郷より電車にて新宿石山氏を訪ふ。暫時戦談して、又電車にて帰る。市中ハ戦地の如し。号外売かまびずし。余、朝六時散歩して帰。美濃国赤坂町陶窯製造業精巧堂石僊氏より印財二果贈り来る。

*かまび(ず)(ママ)し *二果(二顆)

二月十五日 己卯 月曜 晴。陰晴。

余、朝六時散歩して帰。来客、赤尾戒三氏。跡見三治郎来、明夜汽車にて嵯峨県え出立の暇乞

する。

*嵯峨県(佐賀県)

二月十六日 庚辰 火曜 雨。終日雨又ハみそれ。雪少々なから、ちりかゝる。

朝六時散歩して帰。加茂巖日進横須賀着のよしにて桃子迎ひに行。桃子より電報着。汽車なくて明朝帰る。

二月十七日 辛巳 水曜 雪。昨夜の雪珍らしく二寸計積る。

朝雪ちら／＼なからやかて晴たり。午下、橋場小松宮様を詣し、明日御一周年大祭典行なはせらるゝ二付、参拝して帰る。桃子、朝十時新橋着にて帰。

払方摘要 小松宮玉串料、二円五十銭。

二月十八日 壬午 木曜 晴。

朝六時、散歩して帰。来客、別府とく。

二月十九日 癸未 金曜 晴。

朝六時、散歩して帰。午前、三条家へ行、治子様暫時談話して帰。万里家より故博房様の年祭二付、鈴製壺形茶入煎茶入て贈られる。

*鈴製(錫製)

二月二十日 甲申 土曜 晴。

朝六時散歩して帰。万里家え玉串料千疋を備える。

払方摘要 万里小路え玉串料、二円五十銭。

*備える(供える)

二月二十一日 乙酉 日曜 陰晴さまらす。六十三度。南風むしあつく。

朝六時、白山神社散歩して帰。午下正午半より余、桃子と谷中墓地にて万里伯博房君の祭典に詣し、右祭典畢而帰。四時也。

二月二十二日 丙戌 月曜 晴。さく夜の大雨盆を覆すといふへく風もつよくおそろしき也。
朝六時、氷川神社詣て帰る。来客、三条家能勢氏来りて、此ほと申込たる義二付、御一同御祈望のよし申来る。書至、大坂美尾野忠兵衛、同八重。同、但馬きく女。

*義(儀)

二月二十三日 丁亥 火曜 晴。

朝六時、牛天神に詣て帰る。来客、赤尾戒三氏、為永敦盛氏。

二月二十四日 戊子 水曜 晴。朝少し雨、後晴。月光。

朝六時、三崎稲荷え詣して帰。来客、万里小路栄女。

二月二十五日 己丑 木曜 午下四時頃より雨ふり出したり。

朝六時、白山に参詣して帰。書をよす、美濃陶器師石仙子え。

二月二十六日 庚寅 金曜 晴。

朝、氷川神社詣して帰。来客(コノ文、以下記述ナシ)。夜七時頃地震す。

弘方摘要 橋岡え五円。

二月二十七日 辛卯 土曜 雪。朝十時頃より牡丹雪ふり出し、又雨になり、夜又雪になる。

朝六時、牛天神に詣して帰。来客、浅野時子、石山すま子一宿。

二月二十八日 壬辰 日曜 雨。

朝雨中、本郷桜木天満宮に参詣して帰。書をよす、木津美尾の氏、天王寺但間きく、芸州久岡あさ。すま子、今朝帰る。

毎日新聞号外、陸戦の開始。今廿八日午前九時、敵の騎兵平壤の北方七百米突に現れ、我射撃のため退却せり。

受方摘要 博文館、四円。

*木津美尾の氏(木津美尾野氏)

二月二十九日 癸巳 月曜 晴。六十度。

朝六時、牛天神え参詣して帰。補習科卒業製作の画始まる。斎藤梅子、安部則子、酒井藤子、太田房子、下瀬清子、右に号命を贈る。

(二月会計、記載ナシ)

(三月)

三月一日 甲午 火曜 晴。

朝六時、氷川神社に参詣。途次墓参して帰。

三月二日 乙未 水曜 雨。

昨夜より降つゞき、けふ終日降通したり。朝六時、三崎稲荷え参詣して帰。

三月三日 丙申 木曜 晴。

朝六時、白山に参詣して帰。午前九時、偕行社ニ会す。愛国夫人会評議員幹事員集会。十二時帰。

*愛国夫人会(愛国婦人会)

三月四日 丁酉 金曜 晴。

六時、牛天神え参詣して帰。謡曲稽古相断る。時局から能見物もみな廃したり。

受方摘要 下瀬喜代、五円。
払方摘要 橋岡え二円五十銭。

三月五日 戊戌 土曜 雨。終日雨つゞきたり。

朝六時、雨中三崎稲荷え詣して帰。来客、石山基則子、もはや動員令下り、御暇乞に來られ候。受方摘要 酒井藤子、五円。

三月六日 己亥 日曜 雨、又陰、又晴、定めなし。
余、齒痛にて臥。

受方摘要 太田房、五円。斎藤梅、五円。

三月七日 庚子 月曜 晴。

朝六時、白山に詣て帰。書至、大坂唯専寺信枝、病氣之処、医博士緒方氏之診断にては見込なし、断念可致様と云ふ。直に見舞之書を寄す。夕景より、余、桃子と本郷辺散歩して帰。

三月八日 辛丑 火曜 雨。終日雨。

朝雨中、姉小路寿子殿の御墓に詣て帰。午前十時半より外出する。夕景帰。石山基頭、今日より来宿す。基弘マシンにかゝられたるに付、一週間の遠慮なるべし。

*石山基頭(石山基陽) *マシン(麻疹) *一週間(一週間)

三月九日 壬寅 水曜 晴。

朝六時、散歩して帰。来客、葉室後室、加茂富子。

三月十日 癸卯 木曜 曇。終日曇。夜二入て雨ふる。

朝六時、牛天神に詣して帰。来客、田中いく子。

三月十一日 甲辰 金曜 雨。終日雨つゞき。

朝六時、雨中散歩して帰。

三月十二日 乙巳 土曜 雨。

朝六時、散歩して帰。朝、石山家より、基則子、隊にも居られず行方不明なるよし、電話にて申来り。顕さま直ニ安閑寺へ行たれと不居、直に帰宅す。光円寺えも人を出したれと、不来と云。一同心配一方ならず。みな手分してさがし、警察の手にてそうさくする。徹夜、心配する。

受方摘要 小松宮、三円。

*顕さま(陽さま) *そうさく(搜索)

三月十三日 丙午 日曜 雪。終日雪ふりつゝく。

朝六時、散歩して帰。朝九時、石山基則子、行方見附りたるよし、電話にて申来る。朝、愛治郎、石山家へ行。正子も直に石山家二行。戸山学校謝的場にて銃殺のよし也。直に重詰及菓子等見舞に人を遣す。愛治郎夫婦一宿する。

*謝的場(射的場)

三月十四日 丁未 月曜 晴。

朝五時起。内にて祈念する。雪実に見事に積りたり、五寸計。基則子ハ十一日夜八時頃、戸山学校之謝的場見の場に腰打懸て泰然として右の手に小銃を持ち、左の手に腰なるサアベルと手袋を持ち、立派に自殺致されたり。腰かけたるまゝ生たる如く也。日曜日にて生徒謝的的のかけに行て、二人は敬礼して行。三人目の人、敬礼しても帽もぬかずいかなるはと能々見たれば、右の次第にて大さわきと也たるよし也。

*謝的場(射的場) *謝的的(射的的)

三月十五日 戊申 火曜 晴。

朝、散歩して帰。午後、余、泰、栄子、鶴子を拉して、石山家ニ悔みに行。実に惨状いたましき事也。暫時にして帰。香奠、内より、五円。余より、三円。

三月十六日 己酉 水曜 晴。

朝六時、散歩して帰。石山基則之葬式ニ付、愛治郎、正子、泰、桃子も行。正子一宿する。葉山良子様え書をよす。

三月十七日 庚戌 木曜 晴。

朝六時、散歩して帰。志賀氏、講話を聞く。日蝕午下三時十五分よりかけはしめ、

〔図〕 惜ひ哉、雲出て見えすなりたり。

石山家一七日ニ付、愛治郎墓参して帰。来客、松見得聞。

三月十八日 辛亥 金曜 雪。

彼岸の入。朝六時、散歩して帰。

三月十九日 壬子 土曜 雨。

朝六時、散歩して帰。

三月二十日 癸丑 日曜 晴。夜に入て雨。

朝六時、散歩して帰。半日生徒之画を見る。午下、余、桃子と同しく、本郷より電車にて、新宿西方寺に墓参して、石山家え寄、暫時休息して、また電車にて帰。

三月二十一日 甲寅 月曜 晴朗。夜に入て雨。四二(度)。

朝六時前、散歩して帰。終日生徒之絵画を見る。午下、原町辺散歩して帰。春季皇霊祭。祖先祭執行す。来客、岡崎国良。

三月二十二日 乙卯 火曜 晴。四二(度)。朝霜深し。

朝六時前より散歩して帰。来客、三条篤子、柳瀬連子。

受方摘要 安部則子、三円。

三月二十三日 丙辰 水曜 晴。三六(度)。

朝六時前より散歩して帰。午下、愛国婦人会**諧行社**ニ会す。大会前相談也。四時帰。来客、山田梅子、長谷川幸子、安田照子、丹羽花子、志賀鉄千代、**石山基顕**。愛国婦人会入会者十二人紹介す。

*諧行社(偕行社) *石山基顕(石山基陽)

三月二十四日 丁巳 木曜 晴。夕景より雨ふり出したり。三六(度)。

彼岸結願日。早朝散歩して帰。来客、中井敬所、赤尾戒三。生徒試験全畢。

弘方摘要 中井氏え印刻料五箇、十円。

三月二十五日 戊午 金曜 晴。

朝五時、散歩して帰。休業此日より。

三月二十六日 己未 土曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、能勢基章、藤堂家より見合の相談を申込む。

三月二十七日 庚申 日曜 雨。

朝、散歩して帰。愛国婦人会大会、閑院宮御邸ニ於テ。余、生徒五人を拉して行。会者四千人と云。雑沓きはまりなし。御庭と御洋館と雨中にて一入の**困雑**、然し大盛会也。五時済て帰。

*困雑（混雑）

三月二十八日 辛酉 月曜 雨。

朝、散歩して帰。卒業証書授与式執行。午後一日ヨリ閑院宮姫宮御三方成らせられる。式静肅に、四時全畢。

*午後一日ヨリ（午後一時ヨリ）

三月二十九日 壬戌 火曜

朝、散歩して帰。他出、閑院宮様え詣す。此学期より茂子女王様御入校ニ付、御息所より御頼みあらせられる。

三月三十日 癸亥 水曜

朝、散歩して帰。

三月三十一日 甲子 木曜

朝、散歩して帰。

（三月会計、記載ナシ）

（四月）

四月一日 乙丑 金曜 晴。

朝、墓参して帰。赤十字社特志看護婦会え入社する。裏松千代子紹介。
弘方摘要 赤十字入社料、一円。

四月二日 丙寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。

四月三日 丁卯 日曜 晴。

朝、江戸川散歩して帰。九時頃より三条家二行。治子様、公美様、能勢氏と相談事有之候。暫時談判して帰。庭の桜はしめてひらく。

四月四日 戊辰 月曜 雨。

朝、散歩して帰。来客、大橋幸子、貞子入門を願出る。加藤幸子入塾、其母来る。岡崎忠子、能勢基章、夜来。談判好結果に至る。直に書を赤尾氏に寄す。

四月五日 己巳 火曜 雨。

大雨中、朝、散歩して帰。朝、島田信子来。石川徳右衛門氏より学校御寄附金五拾円を持参せらる。赤尾氏来る。三条家よりの条件申遣したる。直に藤堂家へ出て相談一結して、愈条件通りよろしきと云返しに来る。又直に能勢氏を呼ぶ。夜、同氏来りて惣方約束済む。来客、田中愛子、午下、茂木栄子、恒子、中村元子、妹沢子、石川信子、同其母兩人、鶴や朝子、森千代子妹、橋本太吉姪二人入塾。外に入塾三人。朝八時より夜に至る迄来客積也。
*一結して(一決して) *返し(返事) *惣方(双方)

四月六日 庚午 水曜 晴、風。

朝五時起。散歩して帰。授業始。新入生の多き実にな曾有也。閑院宮茂子女王御入門。来客、閑院宮家令松井氏。余、夕景より江戸川の桜花を見る。五軒町を問て帰。書をよす、姉小路典侍、斎藤仁子。

四月七日 辛未 木曜 晴。

朝五時、散歩して帰。来客、[古や朝子](#)。陽其二、此度料理之教授を依頼す。教場で演舌アリ。正子、栄、鶴連て、新宿ニ往て帰。

*古や朝子(古屋朝子)

四月八日 壬申 金曜 晴。あつし。

朝五時前、散歩して帰。庭中の花咲揃ふ。午前より青山に行。新宿え寄て帰。来客、[諸前氏](#)。

*諸前氏(師前氏)

四月九日 癸酉 土曜 晴。暖気甚し。

朝五時前、散歩して帰。午前より堀田氏を訪ふ。夜に入り八時後帰。

四月十日 甲戌 日曜 晴。七十度。

五時前、江戸川の花をみて帰。花も散りはしめたり。

きのふけふ花に心のいとなさは長閑き春とおもはさりけり

きのふけふ心も空になりにつけりあけほのゝ花夕山さくら

四月十一日 乙亥 月曜 晴。

朝五時前、散歩して帰。午下、陽氏来。料理教授はしむ。来客、香川県人管赤堂三十年振。津久居米子、其父退校御礼に来る。落花雪の如し。

受方摘要 津久井氏、廿円。

四月十二日 丙子 火曜 晴。

朝四時、散歩して帰。来客、太田房子、其母 退校御礼、三条末子殿、御供能勢氏正女上野博物館え同行する。約の如く藤堂伯と御会見。赤尾氏も同行。御会見も相済み、藤堂氏ハ御異存もなきよし、此場にて承る、植竹政子其妹入学願ニ来る。

太田房子、紋羽二重一反。

受方摘要 植竹政子、五円。

四月十三日 丁丑 水曜 晴。風つよく花ちりつくしたり。

朝四時、散歩して帰。愛治郎、津久み米子及補習生連て新宿御料地拝見に行、夕景帰。

*津久み米子(津久居米子)

四月十四日 戊寅 木曜 雨。晴雨さたまらず。

朝四時、散歩して帰。津久居米子帰宅す。

四月十五日 己卯 金曜 晴。夕かたより雨ふり出したり。

朝四時、墓参して帰。書をよす、大坂跡見法城え額面及書状、秋田弘石高等小学校校長高橋清民え額面及書状。

四月十六日 庚辰 土曜 雨。終日雨つゞく。四十六度。また重ね着す。

朝四時、散歩して帰。書をよす、小笠原長生、大炊御門、田中氏、来栖貞子。

四月十七日 辛巳 日曜 晴。

朝五時、散歩して帰。書をよす、岩浪稲子、小包にて速記録、山内旭花、小包にて本三冊。

四月十八日 壬午 月曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、茂木栄子、恒子入塾す、佐藤と女中、宮本土季子母、佐々木豊子、清水初子、小兒竜雄、下婢、万里小路直房、智子、小兒芳房、夜、**重たけ**。

*重たけ(重威)

四月十九日 癸未 火曜 雨。

早起。散歩して帰。午下一時より、小笠原長生子時局に関する講話、旅順海戦第一回より八回迄の戦争談、兵士の困難苦辛を聞いて、みな感涙を流したり。決死隊中林氏の血書をみせられる。陛下御覽あらせられたるもの也。書をよす、堀田伴子。

四月二十日 甲申 水曜 雨。終日、夜もふり通したり。

早起。散歩して帰。来客、大炊師前。

四月二十一日 乙酉 木曜 晴。又夜雨ふる。

早起。散歩して帰。午下二時より四ッ谷安部氏を訪ふ。さくら草陳列。実に珍らしき種類の沢山にて、庭前の花段に六十鉢ほど見事に咲きたり。両夫婦よろこひ限りなし。はしめて参りたる事とて、幸、板倉勝達子も来られて久々にて対談いたし、旧を話し、五時暇をつけて帰。書至、乾氏より。

*花段(花壇)

四月二十二日 丙戌 金曜 晴。今宵七日の月、当月はしめて月影よし。有明の月さへもみず。雨しけく。

早起。散歩して帰。来客、橋岡。下婢高部よしの妹菊、目見えする。入塾、横川。受方摘要 横川氏、二円。

四月二十三日 丁亥 土曜 晴。

早起。散歩して帰。朝十一時下りより、余、愛治郎、正子と同しく、本郷より電車ニテ浅草雷門迄行、東橋より汽船に乗テ、隅田川ノ新緑ヲみなから千住大橋にて上り、彼の荒川隄の桜、吉野ハ過て八重こそ今を盛りと咲出たり。一里半程先に普賢桜、樺桜、黄桜、浅黄桜、緋桜、薄紅桜、種々の種類百色もありと云。ゆけとくみゆる限りハ桜なりけりにて、跡え引もとり、香紛々たる中、花見る人も織か如し。所々に懸茶やもあり。又車に乗りて千住大橋ニ着。直に汽船にて両国橋迄にて上り、又電車にて本郷に來り、徒歩して帰。午下五時前也。書をよす、小笠原長生子。

*東橋(吾妻橋)

四月二十四日 戊子 日曜 晴。

早起。散歩して帰。書をよす、跡見法城え昨日小包にてふらむねる一反、師前氏え。来客、石川徳右衛門夫婦、中村幸子、田中久右衛門氏。

●本日岡朝子死去ス。

中村幸子、白紬一反。

*ふらむねる(フランネル)

四月二十五日 己丑 月曜 晴、風甚し。

早起。散歩して帰。来客、今津久子、町子退校御礼に来る。

●本日跡見信枝死去、電信至ル。
今津町子、白紬一反。

四月二十六日 庚寅 火曜 陰、風甚し、雨。

早起。散歩して帰。午前十一時後より堀田家二行。御相承御相伴する。新入十人也。夜八時帰。

四月二十七日 辛卯 水曜 雨。午後より雨やむ。

早起。散歩して帰。来客、斎藤仁子 小児、松野小児連て来る、梅子退校御礼ニ来る。

正子、此日より石山家二行、一宿。唯専寺信江葬送、明廿八日、知らせ来る。

斎藤梅子、茶博多帯地。

受方摘要 斎藤梅子、二十円。

四月二十八日 壬辰 木曜 雨。朝八時頃より晴わたりて月尤清し。

早起。雨中散歩して帰。来客、藤堂俊子、令嬢入塾を依頼。入塾、橋本艶子。石山基則五十日法会にて愛治郎、正子行。来客、岡崎国よし。大坂唯専寺、香奠十円。五軒町より五円、為替にて出す。

*岡崎国よし(岡崎国良)

四月二十九日 癸巳 金曜 晴。風甚し。

早起。牛込停車場の擲躑みて帰る。柴田元春、去ル廿五日死去ニ付、香料千疋ヲ贈ル。

*擲躑(躑躑)

四月三十日 甲午 土曜 晴。

早起。余、正子と同じく五時より電車にて日比谷公園に擲躑をみて帰。六時半。書をよす、赤尾氏。

受方摘要 博文館より四円。

*擲躅(躅躅)

四月会計

雑費、\金拾九円廿五銭。内拾四円差引。残り不足高、金五円廿五銭也。

(五月)

五月一日 乙未 日曜 雨。

朝、墓参して帰。此日、斎藤仁子、亀子と新宿御料地拝観之約、雨にてやめる。書至、赤尾氏。

五月二日 丙申 月曜 雨。終日終夜雨ふり通したり。

朝、散歩して帰。五月一日未明より陸軍始ての戦争に大勝利、大に祝すへし。敵ハ白旗を出して降参するといふ有様なり。大号外。

天地の神も仏もをりたゝせ世にかゝやかん此御いくさに

五月三日 丁酉 火曜 晴。

朝、散歩して帰る。余、愛治郎(と)同しく、俄に約して、斎藤仁子を誘引して新宿御料地御庭拝観、それより代々木御料地拝観する。御庭苑は尤も古く、加藤清正幹地より持帰りし手植の幹竹アリ。老松のいかにも三百年來のものにてさひ渡りて面白し。擲躅も沢山古木なり。新宿よりハ景色一変して結構と覚ゆ。午下二時より五時過るまで、あるき続きに皆々踞も切れ、足もつかれたる様也。御門前にて仁子と別れ、おのれ等電車にて帰る。七時。号外うり盛なり。
*尤も(最も) *幹地(韓地) *幹竹(韓竹) *擲躅(躅躅) *踞(踵) *号外うり(号外売り)

五月四日 戊戌 水曜 陰。

朝、散歩して帰。

五月五日 己亥 木曜 雨。

朝五時、風雨を冒して散歩して帰。来客、斎藤仁子。書をよす、松平武脩、松平鞆子、小早川式子。松平武脩子の御舎弟歩兵中尉さま、九連城占領の際、名誉の戦死を遂られたる二付、弔詞を出す。

五月六日 庚子 金曜 陰。

朝五時、散歩して帰。午下二時より御所姉小路良子様え参る。京都御寺御所素琉尼上京二付面会す。良子様も葉山より御帰参後、久々にて種々の御はなし二而、五時退出す。

五月七日 辛丑 土曜 晴。

五時、散歩して帰。来客、賀田菊子母と御礼に来る。若旅信子、此度対州二旅行、御暇乞に来る。五軒町重たけより家内一同招かれ、八人連にて行。五時帰。来客、久米の万千代、民十郎、権九郎、不在中に来る。

払方摘要 尾張や銀行に預ける、五十円。軍人遺族八軒え五十銭つゝ四円。

*重たけ(重威)

五月八日 壬寅 日曜 晴。

五時地震。散歩して帰。午前より赤坂閑院様に詣して帰。今宵、東京諸新聞の催しにて、祝勝会提灯行列執行せらる。

払方摘要 訓解、五十銭。桃子の分、五十銭。

五月九日 癸卯 月曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、田中菊治郎娘静子退校の御礼に来る、一宿、斎藤梅子一宿。昨夜の提灯行列に雑沓して、桜田門、馬場先門にて死人廿人、負傷者若干を出したり。

受方摘要 田中静子、十五円。

五月十日 甲辰 火曜 晴。七十度。

朝、散歩して帰。午前、酒井伯二行。明日御庭にて運動会催し二付、拝借二行。速に御承知に相成たり。

五月十一日 乙巳 水曜 晴。

早起。散歩して帰。朝八時、生徒一同集り運動会ニ出かける。白山御殿辺より散歩して酒伯邸ニ行。庭中御掃除も清くして、藤花盛りにて藤棚の下、休所を設けられる。池のあたりかきつはた所縁の色を呈し、新緑殊によし。酒家より余興に蓄音器及御菓子等、一同え宅よりも煎餅之類を持参する。種々興に乗して遊戯もあり。十二時一同帰校す。半日の遊ひ面白く候。

五月十二日 丙午 木曜 晴、風甚し。

朝起。散歩して帰。

五月十三日 丁未 金曜 陰。

朝、散歩して帰。授業畢て午下二時より赤十字社に行。篤志看護婦人会醸金、一時出金、金貳拾円也。今川小路玉枝を訪ふ。不在中にて不逢。来客、夕景赤尾戒三来る。此度ハ縁談ハまともらず、破談申来。実に面目なき事と呉々申されたり。

弘方摘要 赤十字社え廿円。

五月十四日 戊申 土曜 雨。午後より豪雨夜通し降りつゝく。七十度上。

朝、散歩して帰。橋本細君、及宗二郎。

橋本氏よりセル地一反。

五月十五日 己酉 日曜 雨。午後より雨晴たり。

朝、墓参して帰。来客、寺野細君。

五月十六日 庚戌 月曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、岡崎忠子。

五月十七日 辛亥 火曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、石山基弘、すま子。

五月十八日 壬子 水曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、跡見玉枝、[岡崎国よし](#)、[石山基あき](#)。

*[岡崎国よし](#) ([岡崎国良](#)) *[石山基あき](#) ([石山基陽](#))

五月十九日 癸丑 木曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、[能勢基章](#)。書をよす、[赤尾氏え](#)。

●[村上増子](#)死去。

五月二十日 甲寅 金曜 晴。

早起。散歩して帰。悲むへき変災。初瀬、[吉野](#)の沈没。五月十五日、敵の水雷に罹りしは老鉄山の南東約十海里の所にて、初瀬ハ約三十分間を隔て二回の被害にて瞬時に沈没したり。吉野ハ春日と衝突して浸水甚しく、終に沈没したり。今朝、此不幸なる変災に接して遺憾やる方なし。痛心に不堪。来客、[田中幾子](#)。[美濃精巧堂石僊え小包](#)及端書出す。訃音、[村上重三郎妻ます子](#)、[昨十九日](#)死去。直に[村上氏](#)、[片岡君子え](#)弔詞出す。

(五月二十一日、記載ナシ)

五月二十二日 丙辰 日曜 朝八時頃より晴天となる。

早起。雨中散歩して帰。朝十時頃より三条家二行、此度藤堂家よりの縁談破談の断申上ル。治子様、[能勢氏](#)にも面会する。夫より帰途、[赤尾氏え](#)立寄。不在ながら家内に逢て帰。戦死者松平恒吉子葬に会す、[愛治郎](#)。

五月二十三日 丁巳 月曜 晴。

早起。散歩して帰。

五月二十四日 戊午 火曜 陰。

早起。散歩して帰。

五月二十五日 己未 水曜 雨。

余微恙あり。終日臥。

五月二十六日 庚申 木曜 晴。午下空晴たり。

早起。雨中散歩して帰。正子、桃子、栄子、鶴子、縫子の五人、雅楽稽古場に雅楽を観る。来客、志賀氏来る。

五月二十七日 辛酉 金曜 晴。

早起。散歩して帰。号外、陸軍万歳、金州南山占領。来客、横浜石川老母、信子の母、石山すま子、五島よし子。

五月二十八日 壬戌 土曜 晴。

早起。散歩して帰。午前より赤坂及北白川宮様に詣して帰。号外、金州南山の苦戦。百折不撓、奮闘十六時間の力攻に此咽喉地を占領ス。死傷者二千五百ト云。此戦争廿六日午前四時より砲火を開始して、十六時間の戦に占領す。

五月二十九日 癸亥 日曜 晴。

早起。散歩して帰。

五月三十日 甲子 月曜 晴。夜月清し。

早起。散歩して帰。来客、浅田ゆき子其夫の妹と同道にて久しぶりに来り、また、雪子の妹、従弟四人、習字の入門願はる、石山すま子、基陽も。

号外、第二軍柳樹屯占領。

五月三十一日 乙丑 火曜 陰。朝さつと一しきりの雨降りたり。

早起。散歩して帰。

(五月会計、記載ナシ)

(六月)

六月一日 丙寅 水曜 晴。

朝、墓参して帰。午下、松平頼子君を訪問す。はしめて参りたれば御よろこひにて、御主人ハ宮城え、御舎弟両君ハ御出征に相成たり。此楼上の眺望ハ南牛込靖国神社わたり一円に絶景なり。種々御咄しの内、夕餐もいたゞきて、頼子君御女中と御家来にて御送り下され、夕景帰。書至、斎藤梅子。来客、[大炊御門もろ前](#)、石山 遺物来る、賀田きく子。

*大炊御門もろ前(大炊御門師前)

六月二日 丁卯 木曜 晴。

早起。牛込停車場辺散歩して帰。来客、田尻幹女。訃音、米倉一平、昨日午前一時死去。御寺御所ヨリそら豆、[ゑんと豆](#)、小包にて着。

*ゑんと豆(豌豆)

六月三日 戊辰 金曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、松木伯、姉小路基遂。米倉氏葬式二付、愛治郎会葬す。香奠金五円。来客、三条家能勢氏。受方摘要 三条家、三円。

六月四日 己巳 土曜 晴。七十九度。始而暑さを覚ゆる。

早起。散歩して帰。昨夜大学ニ火あり。二棟焼尽す。いまた[ポンフ](#)かゝりある。来客、橋本太吉、金子作。

受方摘要 博文館、六円。

*[ポンフ](#)(ポンプ)

六月五日 庚午 日曜 晴。八十度。

朝、散歩して帰。午下、蠣殻町米倉氏え悔に行。帰途、田村氏を訪て帰。

六月六日 辛未 月曜 雨。七十五度。

朝、散歩して帰。五月雨の如く一切つゝ強く降てはまたやみ、梅雨の如くなり。

*一切(一しきり)

六月七日 壬申 火曜 晴。八十度。

早起。散歩して帰。来客、山田熙。

受方摘要 山田氏、三円。

六月八日 癸酉 水曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、石山吉子小児伴子、はしめて御礼に来らる、三条末子 退校御礼に来られる。

受方摘要 三條末子、十五円。

*小児伴子(小児友子)

六月九日 甲戌 木曜 晴。

早起。散歩して帰。午前九時出門して、余、栄子と同じく、両国より汽車で、九々田閑院宮御別邸に参る。御息所御待兼にて、直に御側にて時局御咄しの内御昼餐御陪食する。宮殿下動員令も下りて、近日此九々田御引払に相成候二付、九々田御暇乞に参りたるなり。其内御八ッいたゝきて御いと間申上、四時十五分の汽車にて帰る。松のとね子危篤のよしにて、朝より桃子見舞に行。

払方摘要 汽車人力、三円。

*九々田閑院(久々田閑院) *九々田(久々田) *九々田(久々田) *御いと間(御暇)
*松のとね子(松野とね子)

六月十日 乙亥 金曜 晴。八十度。

早起。散歩して帰。午前六時より松野とね子を訪ふ。喜ひに堪かねて只々涙のみ。相互に涙にて、半かち一しほりとなり、只々心静に養生専一と解なためる。九時帰。書をよす、御寺御所え。

陸軍万歳、号外、

本月七日、**寨馬集**占領

同 八日、岫巖占領

*半かち（ハンカチ） *一しほり（一絞り） *賽馬集（賽馬集）

六月十一日 丙子 土曜

早起。散歩して帰。松のとね子を訪ふて帰。病も大みに見直したり。医師も此分にては先々今は危険の模様もなしと云へり。大々安心なり。

*松のとね子（松野とね子）

六月十二日 丁丑 日曜 雨。

早起。散歩して帰。午下二時半より偕行社二行。閑院宮殿下近日御出征二付、愛国婦人会ヨリ御送別申上る。御息所殿下、及伏見宮御息所、久爾宮御息所、梨本宮御息所様、其役員一同会者二百人計といふ。立食の饗応有て、五時帰。来客、大塚伝三郎、同静子。今朝志賀重昂戦争国巡覧のため出発。愛治郎、新橋迄見立に行たり。

*久爾宮御息所（久邇宮御息所）

六月十三日 戊寅 月曜 雨。

早起。散歩して帰。

六月十四日 己卯 火曜 晴。

早起。散歩して帰。午下一時過頃、さしもの晴天俄に雷鳴、市中二所落雷あり。雹降り出し、其大イサ青梅ほと也。余等、未たかゝる大雹は始めてみし事也。雨もはけしく二時過晴渡りたり。朝地震ス。書をよす、北海道美濃部姑子え。

六月十五日 庚辰 水曜 晴。

早起。散歩。墓参して帰。父の忌日ニ付祭典執行する。来客、増田浪江、妹三千世。号外、露艦筑前沖ノ島に現はる。又対馬海峡附近に現はる。又長門の西北に当る角島附近に砲声らしきものを聞けり。

六月十六日 辛巳 木曜 雨。

早起。散歩して帰。訃音、西三条公允伯薨去十三日死去、本日葬式二付、愛治郎、会葬ス。

浦塩、敵艦、常陸丸を襲ふ。

弘方摘要 柳町掃除町出征軍人遺族十軒え五円。

六月十七日 壬午 金曜

早起。散歩して帰。

号外、浦塩艦隊、沖ノ島と大島との間にて、わか常陸丸、及佐渡丸を包圍攻撃して遂に撃沈す。

受方摘要 軍事公債利子、三円七十銭。

*わか(我が)

六月十八日 癸未 土曜 雨。晴雨不定。

朝四時より散歩して帰。石山故基則子百ヶ日二付、愛治郎、正子参詣す。余、午下、西三条伯え悔二行。浜子さまも久しく無さたにて只々涙のみ。暫時御夫婦と旧を話して帰。石山家え行。雨晴て三時過帰。西三条家え香料二円。

号外、得利寺占領。

受方摘要 九条家、二円五十銭。

弘方摘要 西三条え二円。石山家え一円。

*無さたにて(無沙汰にて)

六月十九日 甲申 日曜 晴。

朝四時半より散歩して帰。来客、橋本宗二郎。訃音、昨夜十時松野利根子死去のよし、電話にて申来。驚愕に不堪。

露艦北海道に現はる。昨十八日ノ今朝福山に來りて奥尻方面に去れり。十五日より五日間にも渡りて今に露艦を見付けず海戦もなきはいかなる事や、切齒に不堪。

和泉丸も沈没されたり。噸數三千二百二十九噸。

常陸丸乗組兵馬數、兵員一千九十五人、乗組員百二十人、馬匹三百二十頭。

夕景、松野氏に弔す。已而帰。

弘方摘要 松野氏え香料、二円五十銭。

六月二十日 乙酉 月曜 雨。

早起。散歩して帰。松野利根子の葬に会す、もゝ子、菊枝。茂木氏の長女死去二付、愛治郎会葬す。書至、木津跡見法城。

六月二十一日 丙戌 火曜 晴。

朝、散歩して帰。

愈露艦浦塩に無事帰りたり。上村の引きゆる艦隊ハ何事そや。国民に対し何の面目あるや、ア、。

受方摘要 閑院宮より三十円。

六月二十二日 丁亥 水曜 晴。

早起。墓参して帰。来客、大草茂岡。大坂美尾野忠兵衛より書至。書をよす、大坂后備歩兵第
四旅団長陸軍少将竹内正策え。

六月二十三日 戊子 木曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、岩浪稲子。

弘方摘要 大草茂岡え餞別、二円五十銭。

六月二十四日 己丑 金曜 雨。

早起。雨中散歩して帰。来客、小西庸子此度縁談済ひ、近日興入二付御礼に来る。

小西氏、白絹一反。

六月二十五日 庚寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。汲泉発行す。

六月二十六日 辛卯 日曜 晴。

朝、余、正子と同しく電車て日比谷太神宮え参詣して帰。来客、浜貞子、斎藤梅子、跡見玉枝。午下、西三条実義伯を訪ふ。風早糸子、久々に面会し昔しを語り合ふ。已而帰。青山なる風早公紀子を問ふ。実に久々にて相互に嬉ひ、みな年もふけたるものかな、維新前の事共咄し合ふ。直ぐ隣りなる錦織子をとふ。是また同し久しふりにて暫時はなして帰る。

六月二十七日 壬辰 月曜 晴。八十三度。
朝、散歩して帰。

六月二十八日 癸巳 火曜 晴。十五夜月清くすゝし。80(度)。
朝、散歩して帰。

六月二十九日 甲午 水曜 晴。

朝、散歩して五軒町を訪て帰。木津美尾野よりホイロ昆布一罐、書状着、返書出す。
*ホイロ昆布(焙炉昆布)

六月三十日 乙未 木曜 晴。

朝、散歩して帰。

(六月会計、記載ナシ)

(七月)

七月一日 丙申 金曜

朝、散歩して帰。訃音、沢窈子今朝五時死去知らせある。

七月二日 丁酉 土曜 晴。夜十一時頃、俄然風吹雨さつとふる。八十六度。

朝、散歩して帰。正午より閑院宮様え詣し、午下四時過帰。

七月三日 戊戌 日曜 晴。六十七度、さむし。

朝、散歩して沢家に悔みに行。姉小路転居二付、四十八番地に行。又重たけを訪而帰。午下如約、禰津恂紹介にて清人清国使署随員何寿明、広東省潮州大埔县人何之楨枚士来訪。何寿明ハ

元支那公使何如璋之男也。父の公使之時、十一歳にて日本に來り。余にも逢し事有て大イに昔し語りも有。奇遇と云へし。

弘方摘要 沢氏香奠、二円。

*重たけ(重威)

七月四日 己亥 月曜 晴。

朝、散歩して帰。沢窈子之葬式二付、愛治郎会葬す。

七月五日 庚子 火曜 晴。

朝、散歩して帰。

七月六日 辛丑 水曜 晴。

朝、散歩して帰。

七月七日 壬寅 木曜 晴。86(度)。

朝、散歩して帰。

受方摘要 博文館、六円。

七月八日 癸卯 金曜 雨。朝雨、午前十時頃より晴たり。86(度)。

朝、散歩して帰。午前より青山に行て帰。

酒井氏、すきや羽織地。井深氏、なるみ二三反。

受方摘要 園祥子、三円。御所女官五人ヨリ十五円。

*すきや羽織地(透綾羽織地) *なるみ(鳴海)

七月九日 甲辰 土曜 雨。

朝、散歩して帰。來客、原氏使小池清、岩佐千賀子。

受方摘要 今城友、二円五十錢。岩佐近、五円。

七月十日 乙巳 日曜 雨。暴風雨、夜雨覆盆。

早起。散歩して帰。来客、石川氏妻と祖母。
石川兩人、紹一反。小野氏、島もの一反。

七月十一日 丙午 月曜 夜半、雷鳴豪雨盆をくつかへす。おそろし。午後より雨晴たり。
早起。大風雨を冒して散歩して帰。時局二付、二季之贈答品を断而、所々え端書出す。夕景、
余、正子と本郷え買物に行。雨に逢て帰。
田村氏より紹一反。宮本兩人、島もの一反。
弘方摘要 買もの、二円。

七月十二日 丁未 火曜 雨。

朝、雨を冒して散歩して帰。突然警部巡查来。木村腸チブスにて入院いたしたるよしにて、塾
掃除シヤウドク法を行ひたり。

弘方摘要 姉小路女中え祝義、五円。

*シヤウドク法(消毒法) *祝義(祝儀)

七月十三日 戊申 水曜 晴。86(度)。

朝、散歩して帰。来客、橋本亀子、志賀鉄千代。横浜原氏え中元白紹一反箱入、佐伯使二行。

七月十四日 己酉 木曜 晴。92(度)。

朝、散歩して帰。余、七時より中元に廻る。田村氏、戸田氏、北白川宮、閑院宮、三条家、青
山先生、千駄ヶ谷より石山家え行。晚餐を食て四時半より帰。来客、太田房子。
茂木より、白紹一反。

受方摘要 三条家、五円。安田氏、三円。藤堂家、二円。大村梅、三円。小早川式、四円。金
子作、一円廿五銭。

弘方摘要 石山女中、一円。車夫え(記述ナシ)

七月十五日 庚戌 金曜 俄に七十一度。

早起。墓参して五軒町あとみ及姉小路家え中元之御祝義申伸て帰。

受方摘要 酒井藤、一円廿五銭。黒岩茂、一円。

弘方摘要 姉小路女中、一円。重威女中、(記述ナシ)。軍人遺族え五円。

*祝義(祝儀)

七月十六日 辛亥 土曜 晴。

朝、散歩例の如し。来客、午下三時、大欽家政君来り、蓄音器を生徒に聞かせられる。又夜、

巴やより、新一、蓄音器持来りて、九時頃済。来客、田中氏。

受方摘要 田中氏、五円。

*大欽家政君(大炊家政君)

七月十七日 壬子 日曜 晴。86(度)。

朝、散歩例如し。来客、石本後室、跡見三治郎。

戸田氏、紋すきや。

受方摘要 戸田幸子、七円。

弘方摘要 泰、弘え四円五十銭。

*紋すきや(紋透綾)

七月十八日 癸丑 月曜 陰。

朝五時、泰、弘兩人房州え出立する。余、散歩如例。

七月十九日 甲寅 火曜 晴。86(度)。

朝、散歩例の如し。

七月二十日 乙卯 水曜 晴。86(度)。暑に入る。

朝、散歩例の如し。来客、大炊御門家政生徒の琴曲蓄音器に入ル、八千代獅子、吾妻獅々、橋岡久太郎謡蘆刈、笠の段、鉢木。此朝、沢家、及三井氏、玉枝方え暑中見舞に行て帰。来客、賀田菊子、西村小竹。

*吾妻獅々(吾妻獅子) *笠(カサ)

七月二十一日 丙辰 木曜 晴。88(度)。

朝、散歩例の如し。来客、富永発叔氏廿年ふりに面会する、玉枝及清女。戸田米子男子出産二付、御祝として松魚一箱、友仙縮緬を贈る。

閑院宮より紹明石一反。

*友仙縮緬(友禅縮緬)

七月二十二日 丁巳 金曜 晴。土用三郎好天気。月清光。88(度)。

朝、五軒町を訪て帰。来客、山崎八重子母。

山崎氏よりゆかた一反。

七月二十三日 戊午 土曜 晴。87(度)。

早起。散歩例の如し。授業畢る。生徒一同運動場に斉列す。校長送別の辞を伸へ、一同退散す。午下塾生も過半帰省する。午下五時頃より俄然夕立して、雷鳴轟き渡り、落雷も有るへしと思ふ。

七月二十四日 己未 日曜 折々細雨ある。

早起。散歩して帰。柳町戦死者金谷三葬式二付、伝通院門前迄行。実に盛なる事也。来客、五軒町はる、江副静子。昨日の落雷廿四ヶ所なり。

(七月二十五日、二十六日、記載ナシ)

七月二十七日 壬戌 水曜 晴。

早起。散歩して帰。

七月二十八日 癸亥 木曜 晴。

早起。散歩例の如し。

三村秩子、白絹一反。

七月二十九日 甲子 金曜 晴雨定りなし、終日。夜十時頃、月清く空晴わたりたり。

早起。散歩例の如し。桃子、栄、鶴、鎌倉行の拵らへいたしたれと空模様あしく、漸思ひ切て、

午下二時の汽車にて行。一泊。

七月三十日 乙丑 土曜 晴。

早起。散歩例の如し。方々暑中見舞文出す。電報、もゝ子今日かへらす。

七月三十一日 丙寅 日曜

早起。散歩例の如し。予、朝より裏松子を訪ひて、閑院宮様え暑中に参る。此時より雷鳴も雨も段々はけしく成りて、一時は耳もツンサクはかりなり。御蚊張を下けて姫宮様かたと帳張の中に這入て居る中、漸遠雷となり、雨も小やみて、昼餐をいたゞきて帰る。来客、師前。受方摘要 博文館、六円。

*ツンサク(劈く) *御蚊張(御蚊帳) *帳張(蚊帳)

(七月会計、記載ナシ)

(八月)

八月一日 丁卯 月曜 晴。

朝、雨中墓参して帰。新聞にて、昨日の落雷二十五ヶ所あり。来客、浦四三子。

八月二日 戊辰 火曜 晴。

早起。散歩例の如し。かまくら桃子より電報、今朝九時出立、迎たのむ。直に車をはせさせたり。

十二時前、桃子、栄子、鶴子、無事帰宅。午下二時、泰、房州より帰宅。来客、岡崎忠子。

*かまくら(鎌倉)

八月三日 己巳 水曜 晴。朝十時頃より驟雨、暫時にして晴たり。

早起。散歩例の如し。予、朝八時より御内儀姉小路良子様え暑中に参る。静坐、軍事上の御話しのみにて十二時帰。来客、浦月子、中島ゆき子、山根文子。

八月四日 庚午 木曜 雨。

朝、雨中散歩して帰。

弘方摘要 山形菊え三円。

八月五日 辛未 金曜

早起。散歩例の如し。

小包物出す。唯専寺、帯皮一筋、白ちゝみ一反。天下茶や、ゆかた二反。京都近万え海苔十帖入。御寺御所えしき布、半かち外品物。みの遠藤えのし梅一箱、帯上ケ。

*帯皮(帯側) *天下茶や(天下茶屋) *しき布(敷布) *半かち(ハンカチ)

*みの(美濃)

八月六日 壬申 土曜 晴。88(度)。

早起。散歩例の如し。午下三時より橋場小松宮邸に暑中伺て、また三条信受院殿を問ふ。良暫く御咄しにて帰。

受方摘要 信受院、一円。

八月七日 癸酉 日曜 晴。88(度)。

朝四時、予、栄、鶴、菊枝、林芳子五人連、散歩して不忍池畔荷花を見る。清爽限りなし。又散歩して帰。重威、幾子、房州に立出する。愛治郎、霊岸島迄行て帰。靖子、早苗里ニ帰ル。

来客、大炊晨子、加茂玉江、静江、石山吉子、伴子、三治郎。

受方摘要 玉江、静子、十円。潤筆料戸田氏、五円。

*静子(静江)

八月八日 甲戌 月曜 晴。87(度)。

三時半起。六時より青山に行。十二時前に帰。下婢きく宿下りする。来客、葉室後室、観世かつ、井深氏。夜白山辺火あり。

八月九日 乙亥 火曜 晴。87(度)。

早起。散歩して帰。書をよす、十三軒。石山基弘子来、一宿。

八月十日 丙子 水曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。来客、阪東大宣、石山基弘子帰、跡見玉枝渡米二付暇乞に来る、餞別として白生縮緬一反を贈る、仁科駒一宿する。

八月十一日 丁丑 木曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。来客、千家信子、清水初、辰雄。一昨九日の出来事、大橋新太郎、娘大橋貞子、下婢の三人、三浦みさきなる海水浴にておほれて死去す。今日葬式、門前通行す。愛治郎、会葬す。

八月十二日 戊寅 金曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩例の如し。終日、押入掃除する。

八月十三日 己卯 土曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩例の如し。来客、安部信子。跡見玉枝渡米二付、予、愛治郎、正子、新橋迄見立に行。無事出立す。帰途、清水氏を問ふて帰。

八月十四日 庚辰 日曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。来客、大炊晨子、一宿。晝至、千葉九々田閑院宮、愈十四日千葉御引払御還京ニテ十七日御出征之趣仰聞られる。

*九々田閑院宮 (久々田閑院宮)

八月十五日 辛巳 月曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。朝四時、愛治郎夫婦、桃子、晨子を同道にて、不忍蓮及入谷朝貌をみて帰。午下四時、弘、房州より帰。

八月十六日 壬午 火曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。午下、閑院宮に詣して、明日御出発御暇乞に参る。両殿下に拝謁して恐悦申上る。夕景帰宅する。

八月十七日 癸未 水曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。午前九時より新橋二行。閑院宮兩殿下、先成らせられる楼上にて恐悦申上る。此道すから奉送の人々雲の如し。余は愛国婦人会より奉送する。軍楽隊万歳の声と共に御勇ましく御出征成らせられる。帰途、角田氏を訪而帰。

八月十八日 甲申 木曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。来客、東伏見宮侍女系、野口孝、田中園子 娘入塾頼みに来る、女鑑記者 畠中作吉。

いと子よりなるみ一反。

*なるみ (鳴海)

八月十九日 乙酉 金曜 晴。 87 (度)。

早起。今川小路玉枝方訪而帰。

八月二十日 丙戌 土曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。

八月二十一日 丁亥 日曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。来客、跡見三治郎。

八月二十二日 戊子 月曜 晴。 88 (度)。

早起。散歩して帰。伏見若宮博恭親王殿下御凱捷ニ付、愛国婦人会より午前八時新橋二行、奉迎する。九時三十分、宮の御容体頗る御常の如く御機嫌よく成らせられて、先々安心いたしました。帰途、閑院宮え詣し、御留守の御見舞申上て帰。

*御凱捷 (御凱旋)

八月二十三日 己丑 火曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。来客、瀬川久可子。

八月二十四日 庚寅 水曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。来客、岩浪稻子。小松宮様より電話にて、明日空よくは四時頃より月見に
来たれとの仰せありて、承りぬ。此日、**重たけ**、幾子、房州帰り夕景来る。

*重たけ(重威)

八月二十五日 辛卯 木曜 晴。 88 (度)。

早起。五時半より、予、桃子と同しく約の如く深川堀田家二行。電車にて。乾氏の講和聴衆
満々たり。昼餐弁当の饗応あり。午早々、又電車にて帰。午下四時半より約の如く橋場小松宮
に詣す。御かり殿にて頼子殿下御待うけにて、御庭の御掃除水うたせて清らなり。隅田川を御
庭の流れにて、**御ゑん台**にて月の向島に登るをまちつゝ御夕飯を戴き、今宵旧盆の十五夜にて
また月の色の清く澄みわたりたる、えもいはれぬなかめのうち、旧を話し新をかたりて、八時
頃御暇申し上て去りぬ。うちもみな月をなかめて姉小路基遂様も御出に相なりたり。九時過か
へられたり。

*御ゑん台(御縁台)

八月二十六日 壬辰 金曜 晴。 79 (度)。十六夜の月清し。月に寐られぬ。

早起。五軒町を訪ふて帰。終日揮毫する。

八月二十七日 癸巳 土曜 晴。はしめてすゝし。七十九度。

朝、散歩して帰。来客、石山すま子、一宿。

此日、池の掃除、家内一挙して魚を捕ふ。**うなき**沢山也。

*うなき(鰻)

八月二十八日 甲午 日曜 晴。 79 (度)。

早起。散歩して帰。朝、すま子帰宅する。来客、加藤こう子。

八月二十九日 乙未 月曜 晴。 77 (度)。

早起。散歩して帰。九時頃より**するか**台田村氏を問ふ。午下三時迄遊ぶ。迎ひの車にて帰。愛

国婦人会より、三十一日清岡氏、白沢氏戦死者葬送代表者として会葬之事申来、承知する。

*するか台(駿河台)

八月三十日 丙申 火曜 雨。75(度)。

早起。小雨ながら散歩して帰。終日雨降出して、久しく待に待たる雨、降も降たり流るゝ如く、草木も蘇生いたしたり。雨喜ふへし。

八月三十一日 丁酉 水曜 朝、小雨、十時頃より雨晴て全く晴天となる。77(度)。

小雨ながら散歩して帰。朝八時前より音羽護国寺え清岡、白沢戦死者の会葬す。十時、柩を祭壇に移して祭官神饌を供し、祭主祭詞を朗読し、続て弔詞もありて、会葬者玉串を捧げる。式畢て帰る。帰途、大橋省吾氏を問て貞子弔詞を伸、種々話して帰。

*祭壇(祭壇)

(八月会計、記載ナシ)

(九月)

九月一日 戊戌 木曜 晴。85(度)。

早起。墓参して帰。昨夜よりの風烈しく二百十日兆、終日風吹たり。来客、浦雪子。

九月二日 己亥 金曜 晴。87(度)。

早起。散歩して帰。来客、鳥居千勢子。小松宮頼子殿下、豊島岡の還御に御立寄の御約束ながら、俄に外え成らせられて御断りに相成たり。待にまちたる遼陽占領の吉報来れり。市中賑ひ一方ならず。予てのやくそく、家内え鰻飯をおごれり。

九月三日 庚子 土曜 雨。78(度)。

朝五時より、余、桃子と同じく電車にて日比谷太神宮え参詣して、公園散歩して、又電車にて帰。市中町々祝捷の軒飾、思ひをこらしたり。小雨ふり出して人気を押へたり。

九月四日 辛丑 日曜

早起。散歩して帰。遼陽全く占領、大本營よりの号外来。市中のハ狂奔の如し。

*市中（のハ（ママ））

九月五日 壬寅 月曜 晴。82（度）。

早起。散歩して帰。御所良子様より電話にて、今夜祝捷提灯行列ある、五時頃より来るへしとの事にて、余、栄、鶴と三人同しく御局へ行、坂下御門より観る。砲兵工廠の祝捷行列惣員八千人とや、和田倉門より二重橋ニ迎ふ。実に盛んなる事、始めて此行列をみて、実に驚々入り。指揮よくととのひて見事也。八時半帰宅する。午下、田村長子、盛子と同道、伝馬町大師え参詣して帰。

*砲兵工廠（砲兵工廠） *迎ふ（向ふ）

九月六日 癸卯 火曜 雨。

早起。散歩して帰。開校、教授する。塾生は三十人計帰る。祝捷会にて何処も狂奔の如し。

九月七日 甲辰 水曜 晴。81（度）。

早起。散歩して帰。来客、鳥尾光、三条家正女。

九月八日 乙巳 木曜 晴。81（度）。

早起。牛天神及五軒町を訪て帰。此日迄、祝捷の軍旗及提灯を掲げる。来客（以下記述ナシ）

九月九日 丙午 金曜 晴。夜雨ふる。79（度）。

早起。散歩して帰。大橋貞子霊前え彩色荷花、哥そへて手向る。来客、大炊師前。弘、今日より大炊御門家政氏え預ける。此度十時氏、学修院教授、及塾生を預る事もやめられたる故也。来客、後藤松陰門人福原謙七尋ね来り、久々にて面談す。

*学修院教授（学修院教授）

九月十日 丁未 土曜 二百廿日。晴、風なし。82（度）。

早起。氷川神社に参詣して帰。来客、沢宣量伯、画を頼みに来る。

受方摘要 今村恭太郎、五円。

払方摘要 氷川神社、五十銭。

九月十一日 戊申 日曜 八朔。晴。80(度)。

早起。散歩して帰。来客、佐々木豊子。

(九月十二日、記載ナシ)

九月十三日 庚戌 火曜 晴。三日月。夜雨ふる。84(度)。

早起。散歩して帰。入塾二人。来客、神津邦太郎。

九月十四日 辛亥 水曜 晴。84(度)。

早起。散歩して帰。来客、佐藤正夫人尚子。入塾一人。故大橋貞子よりヲルガン寄附。

九月十五日 壬子 木曜 晴。75(度)。

早起。散歩して帰。来客、前川初喜、近日鹿児島ニ出発ニ付御暇乞に来る。

払方摘要 軍人遺族八軒え四円。

九月十六日 癸丑 金曜 雨。又晴。風。70(度)。

早起。風雨を冒して散歩して帰。飯塚みち、入塾。

九月十七日 甲寅 土曜 雨。

早起。風雨を冒して散歩して帰。

九月十八日 乙卯 日曜 晴。87(度)。

早起。飯田町電車にて新宿へ行。十二時帰。来客、田尻幹。夕景より、予、正子と五軒町を訪
而雨に逢て車にて帰。

払方摘要 訓解二、一円。外二速記寄附、七十五銭。

九月十九日 丙辰 月曜 雨。

早起。雨中散歩して帰。

九月二十日 丁巳 火曜 雨。86(度)。

雨中散歩して帰。午下、大炊御門家政氏蓄音器、生徒唱歌、広瀬中佐え海軍征露歌三章を入れる、外に御持参の分、生徒に聞かせられる。来客、斎藤仁子、田尻幹、江口美江 入門願出る。

九月二十一日 戊午 水曜 雨。晴雨定まらず、いく度か。

早起。散歩して帰。

*定まらず(定まらず)

九月二十二日 己未 木曜 晴。

早起。墓参して帰。

九月二十三日 庚申 金曜 秋季皇霊祭。晴。

早起。散歩して帰。午下、築地花房男を訪問す。御夫婦二逢ひ暫時談話して、不計、津田弘視氏に初対面する。已にして帰。

九月二十四日 辛酉 土曜 雨。

早起。散歩して帰。

九月二十五日 壬戌 日曜 雨。終日雨降通したり。

微恙ありて臥。愛治郎、桃子、栄子、鎌倉二行。夜二入て帰。

九月二十六日 癸亥 月曜 雨。

早起。散歩して帰。

九月二十七日 甲子 火曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

九月二十八日 乙丑 水曜 晴。月光。

早起。散歩して帰。午前十時より愛国婦人会移転式挙行。総裁宮智恵子殿下御台臨、盛会也。畢而、予、西三条伯を訪ふ。此度之後家の始末二付、果然の外なし。暫時にして帰。夕景より、予、李子と同じく表神保町旭楼二万里伯を問ふて帰。

九月二十九日 丙寅 木曜 晴。

早起。散歩して帰。此朝、愛治郎、正子、国分寺秋草見二行。来客、上野後室。書をよす、甲州清水氏、大坂美尾野氏、野州津久居氏、下総山中秀子。来客、南品川三丁目相川けい。

九月三十日 丁卯 金曜 晴。55 (度)。

早起。散歩して帰。書至、志賀氏旅順九月廿二日出、着。

(九月会計、記載ナシ)

(十月)

十月一日 戊辰 土曜 晴。

早起。散歩して帰。午下、渋谷村田中健三郎氏を訪ふ。暫時閑話して帰。帰途、閑院宮に詣し、御話申上て帰。来客、姉小路基遂、橋本宗二郎。

十月二日 己巳 日曜 陰。夕暮より雨ふり出し、豪雨すさまし。

早起。五軒町を訪て帰。来客、三条篤子、末子、森政子、藤堂俊子。
弘方摘要 山形え三円。三河や、三円七五 (銭)。

十月三日 庚午 月曜 朝雨、十時頃より晴たり。75 (度)。

朝、雨中散歩して帰。

十月四日 辛未 火曜 晴、夜雨。73（度）。

早起。散歩して帰。来客、諏訪愛子、今ハ長岡長可夫人、久々に面晤する。此度、出征軍人え毛布寄附する、五十枚。秋季汲泉を此度のみ廃して、其資にて、校友会より区役所の手を経て出す事也。

十月五日 壬申 水曜 夜雨。

朝、散歩して帰。

十月六日 癸酉 木曜 晴。73（度）。

朝、散歩して五軒町を訪て帰。

受方摘要 博文館、六円。

十月七日 甲戌 金曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、岡本時、栄子縁段之義ニ付話しに来る。右ニ付、安田錐蔵氏、栄子貴請之使ニ来る。速に承諾する。

*縁段（縁談） *義（儀）

十月八日 乙亥 土曜 晴。午下、大ゐに暑くなる。

朝、散歩して帰。午前より青山に行て帰。

払方摘要 釧解二、一円。

*釧解（訓解）

十月九日 丙子 日曜 陰。此夜八時頃より雨降り出し、終夜ふりしきる。

朝、散歩して五軒町を訪て帰。来客、三好妻、石山吉子、伴子、すま子。京都御寺の御所より松たけ一籠、書も至る。

十月十日 丁丑 月曜 雨。終日の豪雨堪間なし。夜と共にふりしきる。

雨中、散歩して帰。

*堪間なし(絶間なし)

十月十一日 戊寅 火曜 晴。

早起。散歩できず。門前裏門共、水にて川の如し。庭前一時間散歩す。午下、余、桃子と三井え買ものに行、清水氏を訪て帰。帰途、松やに寄、買ものして帰。

*松や(松屋)

十月十二日 己卯 水曜 陰。

早起。散歩して帰。御所藤袴様御局え参る。暫時御咄し申上て帰。

十月十三日 庚辰 木曜 雨。

朝、散歩して帰。

十月十四日 辛巳 金曜 雨。晴かともれはまた雨。

朝、散歩して帰。来客、来栖貞子、其母と来。午下、大炊家政氏蓄音器持参、生徒の唱歌を入ル。

来栖貞子より、キヤラ子更砂一反。

*キヤラ子更砂(キヤラコ更紗)

十月十五日 壬午 土曜 晴。

朝、墓参して帰。

十月十六日 癸未 日曜

早起。散歩して帰。

十月十七日 甲申 月曜

朝、散歩して帰。

十月十八日 乙酉 火曜

朝、散歩して帰。

十月十九日 丙戌 水曜 晴。

朝、散歩して帰。夕景、津田弘視氏より結納取替す。此使安田錐藏氏来る。祝酒を出す。八時後済。

十月二十日 丁亥 木曜

朝、散歩して五軒町を訪へ帰。来客、五軒町治、石山吉子。

十月二十一日 戊子 金曜 晴。

朝、散歩して帰。午下、愛治郎と上野商品陳列場に買物二行、白馬会を観て帰。また桃子と呉服や松やえあつらへ物して帰。

弘方摘要 博多帯、八円十五銭。めりんす、二円廿六(銭)。

*呉服や松や(呉服屋松屋) *めりんす(メリンス)

十月二十二日 己丑 土曜 晴雨定まらず。

朝八時半より観世舞台にて、梅若と始めて合并能を見る。来客、清水連郎母、佐藤利尾子。

十月二十三日 庚寅 日曜 晴。

朝、散歩して帰。観世に観能して帰。

弘方摘要 場代、五円。

十月二十四日 辛卯 月曜 陰。

朝、散歩して帰。来客、渡辺安子廿八年振にて面会す、互に旧を話す、大炊御門晨子、石山すま子御祝もの持参せらる、姉小路良子様御使登代来る御祝もの持参、斎藤仁子御祝持参。

十月二十五日 壬辰 火曜 晴、夜雨。

朝、午天神え散歩して帰。来客、斎藤仁子。濃州遠藤より御祝ひ、白山まゆ縮緬一反、小包にて着。

*白山まゆ縮緬(白山繭縮緬)

十月二十六日 癸巳 水曜 晴。

朝、散歩して帰。午下早々愛国婦人会判議員協義あり。畢而桃川白鶴從軍実況談アリ。当校えも来月五日来り講談致すへく約束する。来客、原安子、御祝ひ物持参致される。長尾数子より御祝ひ物小包にて着。

弘方摘要 愛国婦人寄附、二円。

*判議員協義(評議員協義) *〔桃川(ママ)〕白鶴(伯鶴)

十月二十七日 甲午 木曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、石山すま子。

十月二十八日 乙未 金曜 晴。

朝、散歩して帰。

十月二十九日 丙申 土曜

朝、散歩して帰。

十月三十日 丁酉 日曜 晴。

朝、散歩して帰。八時より、予、桃子と梅若能見物する、福田よし子よりの招待にて。四時過帰。

十月三十一日 戊戌 月曜 晴。

朝、散歩して帰。

受方摘要 博文館、六円。

(十月会計、記載ナシ)

(十一月)

十一月一日 己亥 火曜 晴。

朝、散歩して帰。午下より、予、栄子連て石山家及姉小路家重威氏え御暇乞に行。夕景帰。

十一月二日 庚子 水曜 晴。

朝、散歩して帰。教員欠席二付、俄に思ひ付、生徒一同植物園え運動会を催す。十二時一同帰。

十一月三日 辛丑 木曜 天長節。晴。晴朗実到天長節日より、長閑也。

朝、散歩して帰。来客、小川直子。九時生徒一同運動場に出て、君か代三唱して陛下の万歳を唱ふ。午下五時より、予、愛治郎、泰、栄、鶴、桃子と同じく五軒町重威氏え約の如く送別会二行。八時帰。安田錐蔵来、十一日之打合をする。

十一月四日 壬寅 金曜 晴。

朝、散歩して帰。午下、閑院宮様え詣し、暫時御咄し申上て、北白川宮様え詣す。満宮様、愈十四日甘露寺え御降嫁二付、恐悦申上。御拵等種々拝見して御夕餐戴て帰。

十一月五日 癸卯 土曜 晴。

朝、散歩して帰。講談師松林伯鶴を呼て遼陽実戦談を演す。午下一時始り、二席。来聴者、大炊御門師前、家政、晨子、石山基弘、吉子、伴子、すま子、弘、駒女、岡崎忠子、重威、いく子。一同、五時帰。来客、夜、大橋光吉。田中静子、此夕迄滞在して帰。

十一月六日 甲辰 日曜 晴。午前八時頃、俄然雨降り出し霰交り、已而霽、風甚し。

朝、散歩して帰。午下一時より、予、栄子と同道、御所藤袴様御局え御暇乞に参る。良子様御下りにて暫時御咄し申上て、御合の物戴、四時帰。安田千代子より大絹縮一反。青木幾恵より御召縮緬一反。

十一月七日 乙巳 月曜 晴。

早起。散歩して帰。横浜茂木氏より祝反物。来栖氏より帯地、襟二懸、貞子、篤子。茂木氏より佐藤。

*〔佐藤(ママ)〕

十一月八日 丙午 火曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、斎藤仁子。午前十一時より高樹町に行て帰。

弘方摘要 釧解二、一円。

*釧解(訓解)

十一月九日 丁未 水曜 晴。

朝、散歩して帰。栄子荷物を送る。朝九時、人足一同打揃、七荷にサイリヤウ三人、都合廿二人也。午下三時、津田氏ニ着して荷物を渡して夜ニ入て帰。

*サイリヤウ(宰領)

十一月十日 戊申 木曜 晴。

朝、散歩して帰。夕景より雨降り出し、明日を皆々気つかふ。

十一月十一日 己酉 金曜 晴。

栄子の入興の当日。朝より準備に忙し。来客、石山すま子、岡崎忠子、志賀鉄千代。午下四時より栄子両親、その女供に星の岡茶寮に行く。五時、予、桃子、泰、鶴子、弘等も行く。五軒町夫婦、先津田弘視、其母と在。めて度祝言の杯式と済て、一同広間の席に就く。正坐、花房夫婦を始め十一人、正坐、予はしめ十一人、三献の杯済て、相互献酬雑話等もありて、九時全畢。親夫婦、仲人、津田母と大森え帰。一同とめて度開らく、十時過。

*準備(準備) *星の岡茶寮(星ヶ岡茶寮) *親夫婦(新夫婦)

*めて度(目出度)

十一月十二日 庚戌 土曜 晴。

早起。散歩して帰。すま子帰。愛治郎、花房男、及馬越氏、其外安田氏えも御礼に行。来客、観世かつ。赴音、奥村信造昨十一日死去、明十三日葬式。

*赴音(訃音)

十一月十三日 辛亥 日曜 晴

早起。散歩して土方伯訪ふ。伯と閑談す。実故姉小路先君の御書にて、日下玄瑞え遣はされし御書の事二付、古しへの事共語り合て、折から園中の紅葉今日を盛りとて、伯自ら案内せられて此庭園の十二景を観る。庭に大なる碑あり。先年兩陛下行幸後、建られたるなり。八時過歸。午下一時過、津田弘視新夫婦、及其母潑子来られる。先里開き種々談話にて面白く心安く、栄子も大ゐに折合もよさうにて一同安心する。御合のもの祝酒にて、四時過歸られる。来客、佐藤いよ子。

十一月十四日 壬子 月曜 晴、風甚。

朝、散歩して歸。午下一時より閑院宮様え詣す。当日は、此度殿下中将に御昇進あらせられたると、御誕辰との御祝二付召される。御客、田安顛子様、三条治子様、花房夫人、其外、百枝成子、予等にて、御苑の紅葉盛りにて実に結構也。御祝酒、御膳等にて夜九時歸。

十一月十五日 癸丑 火曜 雨。

朝、散歩して歸。午下、奥村氏え悔みに行。香奠千疋を備える。帰途、五軒町を訪て歸。

*備える(供える)

十一月十六日 甲寅 水曜 晴。

朝、散歩して歸。来客、毛利万子、大村梅子、小早川式子入らせられ、久々に雑談、日暮歸られる。石山基弘、吉子。

十一月十七日 乙卯 木曜

朝、散歩して歸。来客、安立安子。

十一月十八日 丙辰 金曜 晴。

朝、散歩して歸。正午より、予、その女を共に大森津田氏え行。電車にて一時に着。母潑子、栄子も大ゐに悦びて迎へる。家の模様もよく齊ひ、新世たいにしては諸道ぐ万端すへてよく集

めたるものかな。田の中にて田家の興可愛。暫して栄子と同じく橋本太吉氏を問ひ、暫時にして帰。津田氏にて夕餐を喫して、六時十七分汽車にて帰る。月清し。

*共に(供に) *新世たい(新世帯) *諸道ぐ(諸道具)

十一月十九日 丁巳 土曜 晴。

朝、散歩して新宿石山家二行。大炊御門師前氏に、頭髮にて縫ひたる無量寿経の曼陀羅を拝す。大幅、実に非凡人の製也。只感するの外なし。清水賢善と申僧の丹情をこらせしもの也。する子と同道にて帰。もゝ子大森え行、一宿。夜八時頃、炮兵工廠中火。

*丹情(丹精) *する子(すま子) *炮兵工廠中(砲兵工廠中)

十一月二十日 戊午 日曜 晴。

朝、散歩して五軒町姉家を問ふ。基遂様、一昨日より大熱四十度二部と云ふ。また何とも名を付す。直に帰宅して看護婦を井深氏に頼のむ。桃子、夕景帰る。

*四十度二部(四十度二分)

十一月二十一日 己未 月曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、橋本太吉。

十一月二十二日 庚申 火曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、富永發叔、石山基陽。

十一月二十三日 辛酉 水曜 晴。朝、雨忽にして晴わたりたり。

雨を冒して散歩して帰。新嘗祭。午々早々西三条を問て三井得右衛門氏に行。能楽見物して、夜七時帰。来客、岩浪稲子。

北白川宮様より御召一反。

受方摘要 北白川宮、二円五十銭。

*午々(午下)

十一月二十四日 壬戌 木曜 晴。

朝、散歩して五軒町を問て帰。

十一月二十五日 癸亥 金曜 陰。

朝、散歩して帰。正子、泰、鶴子、大森津田氏え行。日暮帰。

十一月二十六日 甲子 土曜 雨、午下晴たり。4(度)。

朝、雨を冒して散歩して帰。下婢園女より願ひし巻物落成す。名古屋や浅井氏え出す。御寺御所よりかしら小芋小包着。

受方摘要 潤筆料堀米氏、十円。

*4(ママ)

十一月二十七日 乙丑 日曜 晴。

朝、散歩して五軒町を問て帰。来客、石山すま子、神津九郎兵衛画を願に来る。

受方摘要 浅野吉次郎潤筆、十円。

十一月二十八日 丙寅 月曜 晴。

朝、散歩して帰。愛治郎、岡本氏え御礼二行。紋織一反を贈る。早苗、田舎より来る。

(十一月二十九日、三十日、記載ナシ)

(十一月會計、記載ナシ)

(十二月)

十二月一日 己巳 木曜

朝、墓参して帰。

受方摘要 博文館、六円。

(十二月二日、三日、記載ナシ)

十二月四日 壬申 日曜 晴。

余、愛治郎、桃子と観世会に行。四時帰。

弘方摘要 観世え三円。

十二月五日 癸酉 月曜 晴。

朝、散歩して帰。海事協会ニ於テ義勇艦隊設置の事業を企画せられ、余等、委員に囑托せられたるニ付、校友会会員に金壹円つゝ寄附を頼む事にいたし、書面を配附する。

十二月六日 甲戌 火曜

朝、散歩して帰。

十二月七日 乙亥 水曜

朝、散歩して帰。

十二月八日 丙子 木曜 晴、風甚し。

朝、散歩して帰。

十二月九日 丁丑 金曜 晴。

朝、例の散歩して帰。午下二時より、余、愛治郎、桃子と同しく田村氏に行、夜八時帰。

十二月十日 戊寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。五軒町を訪て帰。

弘方摘要 山形菊え六円。

十二月十一日 己卯 日曜 晴。

朝、散歩して帰。午下、閑院宮様、東伏見宮、志賀氏を訪て帰。

十二月十二日 庚辰 月曜 陰。

朝、例の散歩して帰。来客、菅赤堂、名軸魚覽の観音、持黒天王の軸、実に見るべきもの也。

*魚覽(魚籃) *持黒天王(持国天王)

十二月十三日 辛巳 火曜 雨。夕へよりの雨つゞきにて、午下二時頃より、あられ、みぞれ、

雪また雨となり、つもる事三寸計、初雪には珍らし。

例の散歩して帰。

*あられ(霰) *みぞれ(霰)

十二月十四日 壬午 水曜 雪。四十五度。

早起。例の如く散歩に出かけたれ共、夕へよりの雪にて庭もせはいたく積りて、下たの齒には一はいに雪たかく、ひと足も歩むまれすして、遂に横さまに倒れたり。はだしにて帰る。終日雪ふりつゞきたり。

*下た(下駄) *一はい(一杯) *歩(む) (衍) 一まれす

十二月十五日 癸未 木曜 陰。終夜雨ふり通したり。

今朝も雪にて散歩せず。午下、墓参して帰。来客、原富太郎使小池清、御歳暮持参す。鶴子、きみ子、大森より帰る。

原氏より御召二反。

受方摘要 園田銚子、二円。

十二月十六日 甲申 金曜 朝十時頃より雨晴たり。

朝また大雨。雪も積りて散歩も出来ず。講堂にて散歩す。此日より栄子の内祝もの配らす。余が筆になりたる寿の字を緋に白ぬきにしたる縮緬帛紗、三井にて染させる。それに松魚を付て配付す。

(十二月十七日～二十日、記載ナシ)

十二月二十一日 己丑 水曜

受方摘要 安田暉子、五円。浅田時子、二円五十銭。

十二月二十二日 庚寅 木曜

受方摘要 渡辺節子、五円。園祥子、三円。外五人、十五円。

十二月二十三日 辛卯 金曜

受方摘要 閑院宮様、三十円。軍事公債利子、七円五十銭。

十二月二十四日 壬辰 土曜

受方摘要 藤堂芳子、二円。小のくわ、五円。岡本よし、三輪哥子、五円。上杉琉、一円。

*小のくわ(小野くわ)

十二月二十五日 癸巳 日曜

払方摘要 わしたえ二円五十銭。豊見え一円廿五銭。

*わした(鷺田)

(十二月二十六日～三十一日、記載ナシ)

(十二月会計、記載ナシ)